Aichi Cancer Center News

がんセンターNEWS
Aichi Cancer Center News

第 62 号
平成29年秋発行

発 行
愛知県がんセンター
Tel. 052-762-6111㈹

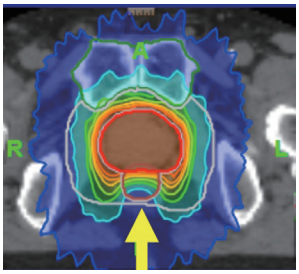
新治療機「トゥルービーム」の紹介

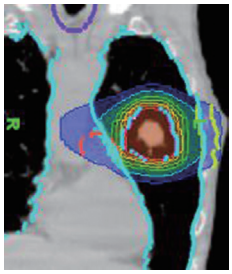
放射線治療部長
古平　毅

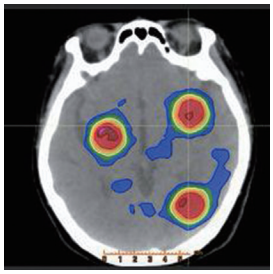
放射線治療部では、2006年導入の「トモセラピー」、2012年導入の「シナジー」を用い、強度変調放射線治療を年間200例ほど行っています。

この治療のおもな対象は、頭頸部がん（約70%）と前立腺がん（約25%）です。強度変調放射線治療の利点は、正常臓器の放射線を大幅に減らし（下図左　前立腺がん治療；黄矢印：直腸への放射線が減っている）病巣部に正確に放射線をあてられる点です。

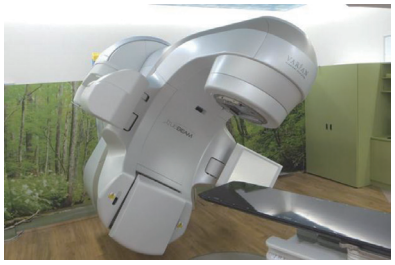
また、小型肺がん（下図中）や脳転移（下図右）に対しては、定位放射線治療と呼ばれるピンポイント照射が有効で、年々適応が増え治療ニーズが増えています。しかしながらこれまでは、定位放射線治療は長時間かかっていたため、脳転移の患者さんのほとんどは、ガンマナイフ治療ができる施設へ紹介をする必要がありました。昨年の定位照射件数は肺がん14件、脳転移11件を行いました。







今回３台の治療機の１つを更新し、最新式治療機「トゥルービーム」（右図）を導入し、より多くの患者さんにこれらの高精度治療を提供できる体制になりました。この治療装置の特徴のひとつは、従来の装置にくらべ高速にＸ線ビーム出力を行うため高精度治療にかかる時間を短縮し、患者さんの負担を減らし効率的に治療を行える点です。



また、トモセラピー同様に回転式の高精度強度変調放射線治療が可能で、当院で特に需要が多い頭頸部がん患者さんへの強度変調放射線治療にも対応可能となります。そして、今回の更新に併せて最新の治療計画コンピュータ（レイステーション）も新しく導入し、一層高いレベルの放射線治療を実施できる体制になりました。

これからも患者さんのニーズにあった、より高品質の放射線治療を提供し続けたいと考えます。

高校生一日看護体験研修実施しました

これからの社会を担う世代に看護の心を理解してもらい、体験を機に看護職を目指す人を増やすため、今年も８月２日（水）に、愛知県ナースセンター主催（愛知県委託事業）の一日看護体験研修が県内高校生1400人を対象に実施されました。当院も名古屋市内の高校から２、３年生47名を迎え実施しました。

まず白衣に着替え、病院長や看護部長からの話を聴いた後、病棟看護師と食事の配膳や検温や処置に同行し、看護の実際を体験しました。

体験後の質問タイムでは、「一人前の看護師になるにはどれ位かかりますか？」「看護師の仕事は楽しいですか、これまでにどんな失敗をしましたか。」など活発なご意見がありました。アンケートからは「絶対看護師になりたいので勉強頑張ります。」「患者さんから頑張ってねと声をかけてもらえうれしかった。」との感想も頂き、私たちにとっても貴重な時間となりました。是非看護の道を歩んで頂き、一緒に働ける事を願っています。参加して頂きありがとうございました。

嚥下食メニューコンテスト「優秀賞」受賞

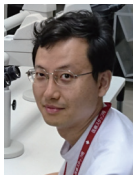
９月13日（水）に東京ビックサイトで開催された、「嚥下食メニューコンテスト2017」の決勝審査会において、当院の「海老とホタテのテリーヌ（クリスマス用）」が初応募ながらも、行事食部門で優秀賞を受賞しました。

＜中央病院　栄養管理部＞

写真：右から、滝澤幸二調理師、原　邦彦調理師

「海老とホタテのテリーヌ（クリスマス用）」

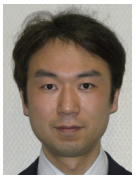
私たち 新任doctorです



遺伝子病理診断部

加藤　省一

これまで名古屋大学医学部附属病院にて、診断病理、特に悪性リンパ腫の病理診断、研究を中心に行ってきました。最新の医学的知見と技術に基づいた病理診断により、それぞれの患者さんにとって最適な治療につながるよう努めてまいります。何卒宜しくお願い致します。



遺伝子病理診断部

真砂　勝泰

2017年７月１日付けで、遺伝子病理診断部に着任いたしました真砂勝泰です。当院へ着任前は、神戸市の先端医療センター病院で腫瘍内科医として固形腫瘍の診療に従事しておりました。当院における個別化医療の推進にお役に立てるように尽力いたしたいと考えています。

脳神経外科部

灰本　章一

初めまして、2017年７月より脳神経外科部に赴任しました灰本章一と申します。脳神経疾患および脊髄脊椎疾患に対する外科治療を専門にしています。患者さんの神経機能を最大限に温存でき、かつ身体に負担の少ない手術を心がけています。がんセンターの一員として、患者さんのお力になれるよう日々努力してまいります。よろしくお願い致します。

2017年度「高校生向け基礎実験体験講座」開催

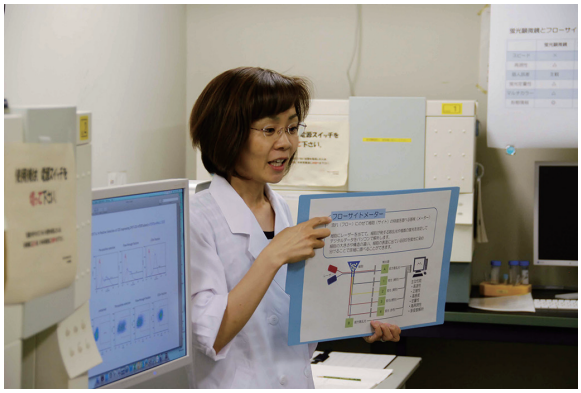
研究所では、８月３日（木）に第14回高校生向け基礎実験体験講座「がん遺伝子のはたらきを見てみよう～がん細胞を狙い撃ち！くすりではたらきは抑えられる～」を開催しました。本年度は計12名の高校生を対象に、正常な細胞機能を撹乱するがん遺伝子の働きと薬でがんを治す仕組みについて、ウェスタンブロットという実験手法を用いて観察してもらいました。本体験講座は、実験を通して生命科学の面白さや医学・がん研究の重要性を感じてもらうとともに、研究者と話をすることで、今後の進路決定の一助となることを目的としています。参加された高校生からは、「実験を通してがんについて理解でき、貴重な経験だった」、「文字だけで学ぶより面白く感動した」と大変好評でした。また、本講座に福井県から参加された高校生からも「福井から長い時間をかけて来た価値があった」という感想をいただきました。来年度も研究の面白さや重要性を伝えられる体験講座を実施していきたいと思います。

ご参加いただいた高校生のみなさんと

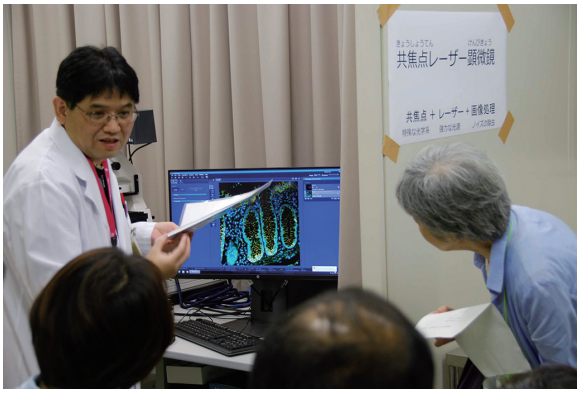
高校生体験実習の様子

研究所見学ツアーを開催しました！

2017年９月２日（土）の正午から、研究所見学ツアーを実施しました。晴天にも恵まれ、30名の定員を超過する44名の方にご参加頂きました。幅広い年齢構成で、愛知県外在住の方も参加されました。１グループ約10人の編成にて、研究所研究員の引率により、純水作成装置・製氷装置、共焦点レーザー顕微鏡、フローサイトメーター、次世代シーケンサーを見学しました。引率者や説明者の熱のこもった説明、参加者からの多くの質問のため、30分のツアー予定時間を大幅に超過するグループが相次ぎました。特に次世代シーケンサーでは、ゲノム情報に基づく精密医療（プレシジョン・メディシン）への皆様の関心の高まりのためか、さまざまな質問を頂戴しました。参加者全員のアンケート結果より、９割以上の方が「満足している」とのご回答を頂きました。研究所の活動を皆様に知っていただく広報活動としては、成功だったのではないかと思いました。



当日のフローサイトメーターでの説明



当日の共焦点顕微鏡での説明

患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな１頁

とうろく医探訪 No.5

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

医療法人かすが 一社クリニック 院長：春日輝明先生

日頃からがんセンター中央病院の皆様には大変お世話になっております。

私の専門は消化器外科ですが、開業し25年にもなると様々な訴えの患者様が来院してきます。口腔内や頭頸部のしこりが主訴の方も少なくなく、悪性が疑われたり迷ったりする症例はいつも頭頸部外科にお願いしてきました。

昨年６月からは下部消化管内視鏡検査が電話予約出来るようになり、 大腸内視鏡検査の必要な患者様はがんセンターにお願いするように致しました。予約がとても簡単でスピーディーです。ほとんどの方が１週間程で検査が受けられ、その後のEMRやESDなどの治療もスムーズで患者様には大変喜ばれております。今では言わば「当院の内視鏡室」として気軽に利用させて頂いております。時に開業医の先生方から、がんセンターは紹介し難いと言う声を耳にしますが、連携室や受付のスタッフの方は丁寧で親切ですし、先生方にはいつも快く患者様を引き受けて頂いていて、鈍感でしょうか、私は紹介し難さを感じておりません。腫瘍のない症例も多く申し訳ありませんが、今後も気兼ねなく患者様を紹介させて頂くつもりです。

【医療機関情報】

医療法人　かすが
一社クリニック
診療科目／内科、外科、胃腸科、皮膚科
電　　話／052-702-7600
所　在　地／465-0093
名古屋市名東区一社４－211
ＵＲＬ／http://www.isshaclinic.com

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	／	○	○	／
午後	4:00-7:00	○	○	○	○	○	／	／

★アクセス：名東郵便局西へ約100m

★お車でお越しの方：駐車場完備　11台

編集後記：第５回は名東区の一社クリニック、春日先生です。地域に根差し、がん患者さん、がんの疑いのある患者さんを迅速にご紹介頂いております。今回、顔写真は恥ずかしいとのことでしたが、誠実で大変温厚なお人柄の先生です。これからもよろしくお願いします！<Y.SANO>

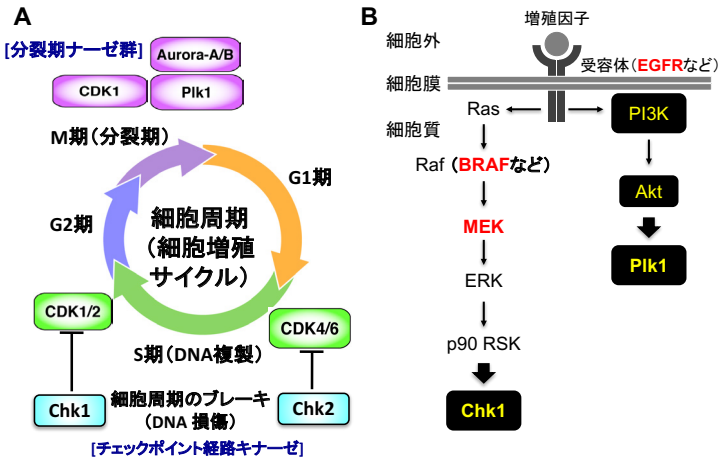
がんの異常増殖を抑制する治療薬の開発に向けて

研究所 ～腫瘍医化学部～

腫瘍医化学部 室長
後藤　英仁

がんの大きな特徴の一つに、自律性かつ無限に細胞が増殖していくことがあげられます。細胞の増殖には、様々なタンパク質リン酸化酵素（キナーゼ）が関与します。我々が研究対象にしているのは、図Aに示した細胞増殖に関与するキナーゼ群です。これらのキナーゼ群の活性は、がんで異常に高くなっており、そのことががんの異常増殖に関連していると考えられています。そのため、多くの製薬企業がこれらキナーゼ群（図A）の阻害剤を次世代の抗がん治療の分子標的薬として、開発をおこなっています。最近、サイクリン依存性キナーゼ（CDK） 4/6の阻害剤が、ある特定の乳がんに対して、ホルモン療法との併用という形で米国において承認されました。図Aに示した他のキナーゼについても第Ⅰ相から第Ⅲ相の臨床治験が行われています。

我々の研究グループは、これらキナーゼ群が相互に連携しながら、細胞増殖を制御していることを報告してきました。これらの研究成果は、（開発中のものを含めた）分子標的薬同士をどのように組み合わせれば、相乗効果が得られるかを示唆するものです（図B）。現在、これらキナーゼの経路の下流にもっと有効な分子標的タンパク質が存在する可能性を想定し、研究をおこなっています。



図A）細胞の増殖サイクル（細胞周期）と細胞周期に関与するキナーゼ群の模式図
細胞は、自身の遺伝情報（DNA）をS期で複製し、それを分裂期（M期）で2つに均等に分割します。S期とM期の間には、通常、ギャップ（Gap）を意味するG1およびG2期が存在します。

図B）がん化に絡むシグナル伝達経路の模式図
現在、抗がん治療に用いられている分子標的薬の標的キナーゼ（赤色）および治験中の分子標的薬の標的キナーゼ（黄色）を示してあります。我々の研究グループが報告した経路の一部は太い矢印でしめしてあります。

～ 研究所　感染腫瘍学部　　スタッフの紹介 ～

感染腫瘍学部では、細胞が通常の状態を保つ仕組みの破綻としてがんを捉え、その分子メカニズムについて研究しています。細胞の内外では増殖や生存を厳密に制御するために様々なシグナルのやりとりが行われていますが、遺伝子変異や細胞を取り囲む環境の変化によりシグナルが乱れると、細胞のがん化やその悪性化を招くと考えられます。私たちは、がんの発生や悪性化につながるメカニズムをより深く理解することにより、新たな治療法の開発を目指しています。

写真：前列左から、疋田智也（研究員）、小根山千歳（部長）、内藤陽子（研究員）
後列左から、宮田眞美子（技師）、山内友恵（リサーチレジデント）、桒原敦（任意研修生；大阪大学大学院）、渡邉理沙代（技師）、八木玲子（研究員）

婦人科がんの治療戦略

～新規手術療法から拡大手術まで～

中央病院 ～婦人科部～

婦人科部長
水野　美香

婦人科がんの手術は、様々な知識や技術・経験が必要とされます。例えば、子宮や卵巣に隣接する尿路系や消化器系臓器も安全かつ根治的（きちんと癌を切除すること）に扱える技術や、妊孕性（妊娠する能力）の温存の工夫、あるいは小さな創部の低侵襲手術など、質の高い標準治療はもちろんのこと、新規手術の導入も重要です。現在、豊富な経験をもつ婦人科腫瘍専門医が少なく、あらゆる婦人科手術に対応できる施設も多くありません。

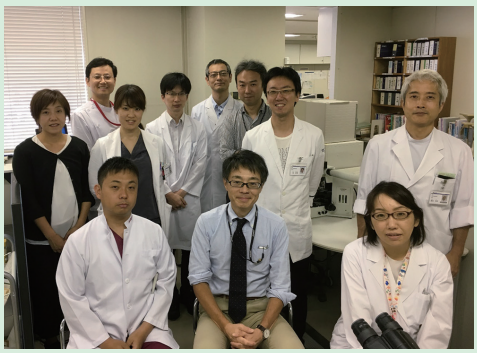
当院は、がん治療の専門施設として、多くの選択肢の中から、患者さんにとって最良と考えられる手段の提供を目指し、また、東海地方の中核病院としての役割を担うべく、邁進しております。

現在、子宮体がんに対する腹腔鏡下手術、早期子宮頸がんに対する広汎子宮頸部切除（子宮温存手術）、子宮頸がんに対するダヴィンチによるロボット手術、遺伝性乳がん卵巣がん患者さんに対する予防的卵管卵巣切除（RRSO）、晩期にわたる合併症のリンパ浮腫軽減のためのセンチネルリンパ節同定の取り組みなど、様々な取り組みを行っています。また、局所進行がんや再発がんにおいては、他科と協力し骨盤内臓全摘術なども行っております。手術以外の方法として、抗がん剤や放射線とコンビネーション治療、新規治療薬の治験などにも取り組んでおります。

婦人科部　スタッフ一同

～ 中央病院　遺伝子病理診断部　　スタッフの紹介 ～

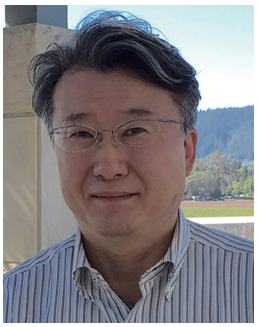
遺伝子病理診断部は、愛知県がんセンター中央病院および愛知病院の病理診断を担当しています。外来や病棟を持たず、直接患者さんにお会いすることはありませんが、各診療科を通じてそれぞれの患者さんの診断を担当させていただいています。これまでに培った技術に加え、平成29年度から個別化医療センターも加わったことにより、ゲノム情報も含めた総合的で、治療に直結する診断ができるよう日々研鑽を積んでいます。



写真：前列左から、出嶋仁医師、谷田部恭部長、村上善子医長
後列左から、岡南裕子医師、加藤省一医長、
國友愛奈医師、佐々木英一医長、羽根田正隆医長、
真砂勝泰医長、森俊輔医師、藤田史郎医師

安全・安心かつ効率的な輸血を目指して

中央病院 ～輸血部～



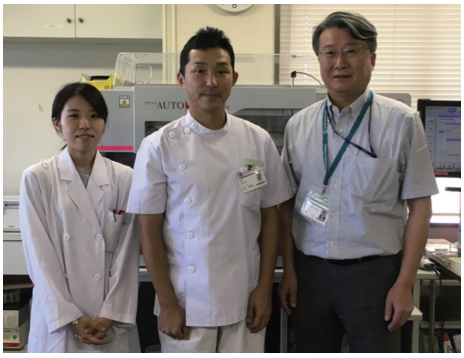
輸血部長
山本　一仁

手術や抗がん剤治療などのがん治療を安心・安全におこなうためには輸血が必須です。輸血部は当院における良質で安全ながん医療のため、輸血関連検査と輸血用血液製剤供給の一元管理業務を担っています。その実践のため、効率的な輸血管理システムの構築と輸血療法の指導は輸血部に求められた基本的使命と考えています。また、輸血は「細胞治療」の一部という観点から、造血幹細胞移植細胞の採取・保存の支援もおこなっています。

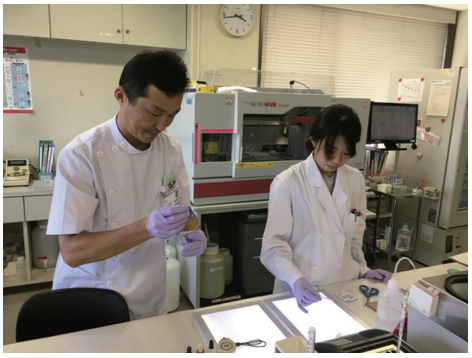
現在の輸血部の主な業務および取り組みは以下の通りです。

- リスクマネージメントの観点から医療事故を未然に防ぐ輸血管理システムの構築
- 献血して頂いた血液製剤を無駄にしないための製剤管理
- 輸血に伴う副作用の一元管理と輸血後感染症検査の推進
- 輸血関連の問い合わせ対応や講習会を通じた輸血教育
- 自己血や造血幹細胞移植細胞の保存・保管

今後は、適切な血液製剤の管理のため、輸血用血液製剤のみならずアルブミン製剤を一元管理することが重要であると考えています。「適正かつ安全で効率的な輸血療法」を推進するしつつ、輸血部に求められている新たな使命・課題を意識しながら皆様の支援をおこなっていきたいと考えています。



左から：榎本美里（技師）、早川英樹（専門員）、山本一仁（部長）



輸血関連検査に取り組むスタッフ

～ 中央病院　看護部　　スタッフの紹介 ～

病棟所属の乳がん看護認定看護師を中心に、退院後の生活に困難が生じないよう院内すべての乳がん術後患者さんを対象に集団で退院オリエンテーションを行っています。

集団でオリエンテーションを行いながらも患者さんの個別性にも注視しており、集団でありながら個別の対応も行っています。

病室や病棟が異なる患者さん同士がふれあう貴重な場ですので、患者さん同士が支えあい癒しあえる交流の場となるよう雰囲気の良い環境作りを心がけています。

写真：前列左から、高瀬まり（看護師）、瀬古志桜（乳がん看護認定看護師）、佐藤みなみ（看護師）、福井真衣（看護師）
後列左から、伊藤有希（看護師）、大岩紗代子（看護師、リンパ浮腫セラピスト）、山本香織（看護師）、田崎智子（乳がん看護認定看護師）、伊藤葵（看護師）

ボランティアコンサート開催

８月25日（金）に、東海学園交響楽団の有志11名による、ボランティアコンサートが国際医学交流センターで開催されました。日々練習を積んだ成果を発揮し、映画やドラマ音楽、クラシック曲を演奏していただきました。多くの方にご鑑賞いただき、大盛況の演奏会となりました。

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日　**午前9時00分～午後7時00分** **土曜日　午前9時00分～午後1時00分** （祝日、年末年始を除く）
電話	０５２－７６４－９８９２　（直通）
ＦＡＸ	０５２－７６４－９８９７　（24時間稼働しております。）
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	**午前8時30分～午前11時30分**（自動再来受付機による受付は午前8時からできます。）
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液･細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科（サルコーマ外来）、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断･IVR 科、放射線治療科、緩和ケア科（精神腫瘍科･リンパ浮腫外来･ペインクリニック）
外来診療担当医一覧	毎月１回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土･日･祝･年末年始を除く）
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制･自由診療）
※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用　名城線「自由ヶ丘駅」２番出口から徒歩７分
市バス利用　基幹2系統･星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩４分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約１０分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約１５分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約１０分

※詳しくはホームページをご参照ください。

愛知県がんセンター　Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963
〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号　ホームページ http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/

愛知県がんセンター　検索

がんセンターNEWSは古紙配合再生紙を使用しています。